常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月 12 日(金)

◇　【検討中】来年度からの部活動に関わる対応について❷

＜その❷＞

　グラウンドを駆け回ることが大好きな子供たちでも、運動が苦手な児童もいる。部活動運営で配慮しなければならないことは、通常の練習、大会出場とも、全員が気持ちよく取り組ませる環境を整えることである。

　現在、頭の中にある来年度以降の「部活動運営委指針」を以下に示す。

＜基本方針＞

・児童の安全を第一。
・指導時は、複数の顧問で対応。
・４年生以上の児童全員の参加を原則。
　※保護者の申し出等がある場合、部活動の参加を見合わせることも考慮。
・部活動は「陸上・水泳部」とする。臨時的に「音楽部（合唱部）」を設置。
★主体は「陸上部」。
★体力づくりと猛暑対応を鑑み、夏期のみ「水泳部」として活動。
　※活動日は顧問裁量
★大会への出場は「陸上部」のみを基本。
・水泳大会（記録会）への参加については、児童・保護者から希望がある場合、教員が該当児童を引率指導して大会への出場可。
・大会に参加する場合（※出場選手、補欠選手、希望者）は、便宜性と児童の安全を鑑み、保護者等（関係者）の送迎を基本。

＜活動期間・活動時間等について＞

・平日の練習日は火曜日と金曜日の週２日。
・活動時間は最長を 16 時 30 分まで。
　※日照時間や天候、練習環境、児童の体調、安全に実施できる顧問人数の確保等を考慮し、顧問の判断で柔軟に行う。
　※活動終了時刻および下校時刻は事前に練習計画表で保護者に周知するとともに、急遽中止する場合は学校情報メールで保護者に情報を伝える。
・活動期間は４月から岡崎市小学校陸上大会（９月末）まで。
・陸上大会後（10 月）から３月は活動休止期間とする。
・休日および夏休み期間中は活動休止とする。

・下校時の安全の確保を図るため、部活動下校を基本。
・最終下校時刻は以下のとおり。
※活動の中止や活動時間の短縮で、下校時刻が早まることもある。
○４月から７月　１６：４０（活動最長時間１６：３０）
○９月　　１６：３０（　　〃　　１６：２０）

＜その他＞
・顧問は、児童の運動能力や運動適性の把握に努める。
・顧問は児童の個に応じた活動ができるよう留意して部活動を運営する。
・水泳部の活動においては、３名以上の教職員で対応。
・活動場所の施設、設備、道具等について、定期的に安全点検を実施。
・特に夏季については、気温等の情報から活動実施の有無や活動量・内容を検討して反映。
・事故が発生した場合、顧問は「危機管理手順」に則り、迅速に対応。
・水泳部活動期においてはプールに AED を設置。（※職員室は常駐）
・全職員が AED を取り扱うことができるようにする。
・PTA 総会で、保護者に「部活動ガイドライン」を提示。
・「こどもの家」の指導員と情報共有を図る。

…など思案中

＜❸に続く＞

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月 12 日(金)

◇　【検討中】来年度からの部活動に関わる対応について❸

＜その❸＞

来年度の部活動大会の日程が固まりつつある。関係分は以下のとおり。

☆岡崎市小学校陸上大会　R3.9.30（木･ｷｯｽﾞﾃﾞｲｽﾞ期間中）　龍北スタジアム

★岡崎市小学校水泳分散記録会　R3.9.4（土）　　市内 12 小学校分散会場

水泳競技は、記録会を市内 12 小学校で分散開催し、記録を集計して表彰する形となった。以前は南北の２ブロックに分けて大会を行う大々的なものだったが、他の競技と同様にずいぶんスリム化された。

陸上競技は、龍北スタジアムが完成し、公式記録も残る万全の環境が整った。しかも、中学校新人戦との同日開催（実施方法は未定）であることから、条件が整えば中学生の競技の様子を参観できる。陸上を本格的に頑張ろうと考えている子供にとっては、競技意欲を高める絶好の機会である。

さて、＜その❷＞で述べたように、来年度からの部活動の主体は陸上部で、９月末の陸上大会を見据えた活動となる。水泳部としての活動は、体力づくりが基本（大会への参加は希望制）で、暑さ対応も加味する運営だ。加えて、夏休み期間中は猛暑対応による部活動休止期間となるため、水泳部としての活動は１学期末までとなる。さらに、水泳を授業履修は１学期で完了する実態がある。

よって、PTA 役員のご意見を伺いながら、夏休み期間中の「プール開放」については、廃止することを視野に入れている。

これには、他の理由もある。いわば「保護者の支援協力改革」である。

本校児童の保護者は、児童の少なさゆえ、PTA 奉仕活動・資源回収・登校時の交通当番など、学校への協力度合いが他校に比べて格段に多い。こうした現状を鑑み、保護者の負担軽減が必要であると考えている。プール開放を行えば、複数回の監視員の協力を依頼せねばならず、しかも、猛暑の炎天下、焼けつくようなプールサイドでの対応は協力の度を越えている。見直しは急務である。

よい機会なので、他の PTA 活動で考えていることを列記する。

①グラウンドの草取り等の奉仕活動の軽減（※通学路の草刈り整備は外せない）

②朝の交通当番の協力回数減（※対応方法を検討中）

③資源回収の回数減（※収入減に対応する方策を検討中）などがある。

いずれも PTA 役員を交えて協議し、来春の PTA 総会でお伝えする予定である。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月 12 日(金)

◇【検討中】来年度からの部活動に関わる対応について❹　働き方改革の波の中で…

＜その❹＞

その❷に示した新指針のように、次々と新たな手立てを考え、改革を講じていく背景には、教員の「働き方改革」の波が迫ってきていることも否定できない。

硬い出だし（難い出だし）となってしまったが、せっかくの機会であるので、本校の教職員に伝えている「働き方改革」についての私見を述べることにする。

「働き方改革」に関わる報道に耳を傾けると、とかく「教職員の職務に対する疲弊を抑えるための勤務（時間）の減少」ばかりに傾倒している。

確かにそれもあるにはあるが、これが本改革の真意ではない。

「働き方改革」の着陸地点・行き着く先は、「子供たちの幸せ」にある。

我々が、疲れを溜めないことを考えて職務にあたるのは愚案。

働き方改革によって生み出された時間、生じた時間を、子供たちのためにあれこれ思案し、これまで忙しさのあまりできなかった手立てを講じていく。

これぞ本改革の真意である。

大事な部分なので、言い方を変えて、もう一度述べる。

教員が楽をすることが改革のねらいではない。体力的な余裕と精神的な余裕、そして時間的な余裕によって生み出される「精神的なゆとり」を子供たちのために還元するのである。よって、我々教職員は、改革にあたり、覚悟をもって臨む必要があるのだ。

そして、昨年の７月、いよいよ関連法案が成立した。

教職員の働き方に関する法改正に伴う各県の条例制定により、教職員の働き方については、令和３年度を皮切りに、全国の小中高等学校でより一層の見直しが図られていく。

しかし、本校の教職員の意識がそうであるように、「子供のために」という不易の理念は忘れてはならない。「負担を減らす」のではなく、「いかに効率よく展開する」かが重要であり、この「効率化」が、「子供たちの幸せ」に結びついていく。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月１９日(金)

◇ with コロナ

早いもので、本校への赴任以来、あと１か月半程で １ 年が経とうとしている。
振り返れば、新型コロナ対策に頭を悩ませた年ではあったが、学校も、職員も、そして子供たちも、コロナに振り回されてはいない。コロナと向き合ってきた。
だから、コロナ対応で学んだこと、身に付けたことも確かにあると言い切れる。

私事ではあるが、私生活でも見事に出歩かなくなった。この歳になって自制心が格段に高まったのではないかと勘違いしてしまうほどだ。
家族の存在も大切ではあるが、子供たちと接する教職を生業としていることが行動を抑制し、自己をコントロールできる最大要因であることは間違いない。

確かに「新しい生活スタイル」に呼応するためには、これまでにない配慮に迫られた。しかし、慣れてしまえば、【あたりまえ】に変わる。

マスク装着は【あたりまえ】。
教室の換気は【あたりまえ】。
給食配膳時・摂食時の私語慎みは【あたりまえ】。
登校前の検温は【あたりまえ】。
指先を重点に石鹸で手を洗うことは【あたりまえ】。
手指への「消毒液をチュッ」は【あたりまえ】。
※「しゅし」を変換すると、最上位が「趣旨」。続いて「種子」「主旨」…であったが、今や「手指」があたりまえ。
学校生活や家庭での【あたりまえ】が増えた。

児童の体調不良による欠席の少なさやインフルエンザ感染ゼロの実態から推し量れば、with コロナの新しい生活スタイルの定着が学校の安全衛生を向上させたといえる。

新しい生活スタイルが始まり、ほぼ一年。
児童や教職員の「気のゆるみ」がないかといえば、言い切ることはできない。

わずかながらではあるが、「小さなほころび」が確かにある。
「小さなほころび」が大きくなる前に手を打つことが重要だ。
２月１日（月）の保健委員会で
「最近は、登校した後、手を洗わずに教室に入る子もいるので、とても心配です。」
との意見が出された。
これは、すばらしい発言だ。
発言者の意見の根本には、【自分がしっかり行っている事実】がある。
また、発言の中に、【コロナ対応を皆で行う意義】を含ませている。
さらに、「このままでは心配だ」と【柔らかな警告】を発している。

児童の発言を受けて、委員会担当教師も動く。
委員会の時間だけでは深まりが足りなかったことから、翌日の２日（火）に臨時の保健委員会をもっている。

他の動きもある。
臨時委員会と同日の２日、お昼の放送で保健委員長から手洗い状況の報告があった。その放送を耳にし、すぐに状況把握と指導にあたった担任もいたと聞く。
【鉄は熱いうちに打て】【指導はタイムリーに】
指導の鉄則である。

さらに２日後の４日（木）の職員会議では、
「子供たちが登校する前に出勤し、教室で子供を迎えましょう」という発案が教員から出て決議に至り、12日（金）まで自主的に行動してくれている。

担任陣の女性は主婦ばかりで、朝の時間帯は大変である。それでも家庭の時間をやりくりして早期出勤で対応する姿勢には、本当に頭が下がる。
「働き方改革の波」が押し寄せている最中（さなか）にである。

その後の子供たちの様子を見ると、以前の【あたりまえ】が戻ってきた。
【自浄】・【自助】・【共助】がうまく作用している。

一番ほっとしているのは、我々教員ではなく、保健委員会で勇気を出して発言した子供であろう。

「発言してよかった。」　この思いが、次につながる。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月１９日(金)
その２

◇ 秘密兵器❸

２枚の写真をご覧いただこう。

★R2.10 月撮影

☆R3.2 月撮影

赤枠と緑枠を拡大したのが下の写真。

明らかな違いは地表の色。
❶は土。若干濃い部分は芝系雑草があるところ。
❷は土のように見えるが、芝系雑草が枯れた部分。
❸は元気な芝系雑草。
❹はコケが沈着し、冬季の枯れにより黒く変色したもの。

今となっては懐かしい風景だ。

赤枠写真が「根こそぎ君NEO」走行後の写真。
まんべんなく土色だが、よく見ると、タイヤ痕とは異なる跡がある。これが掻き取れずに残った芝系雑草の根である。

取り切れずに残った根ではあるが、秘密兵器によって根が切断され、大きなダメージを負っているようだ。以前に比べてかなり抜きやすいのが、その理由。

ビフォー・アフターが分かりやすい写真を見てみよう。

タイヤや遊具を挟んで、左がビフォー、右がアフターである。

さらに拡大してみよう。

冬季だからこんなものだが、夏期のタイヤ近辺は緑一色であった。

さて、今年の夏。
タイヤの左右でどんな違いが見られるのか、今から楽しみである。

ちなみに、子供たちもグラウンド整備に力を貸してくれている。
地中から出てきた小石拾いや草取り(根抜き)に、黙々と取り組んでくれている。

秘密兵器は、ある程度のところまでが限界だ。
最後の仕上げは、やはり人力であることを身に沁みて感じている。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

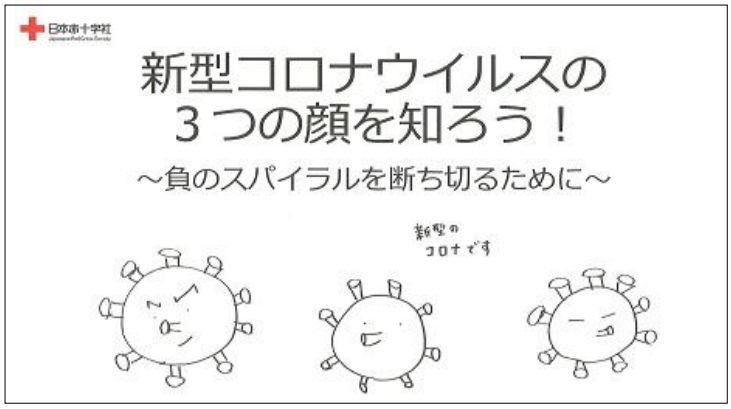
令和３年２月１９日(金)
その３

◇ with コロナ❷　日本赤十字社からの贈り物

日本赤十字社から小冊子の贈り物が届いた☞
タイトルは「コロナに負けるな！」とある。

さらっと目を通して感心した。
新型コロナを理解し、適切な対応をするには、本当によくできた読み物だ。
よい機会なので、冊子の概要を紹介したい。

表紙をめくると、サブタイトルが現れた。



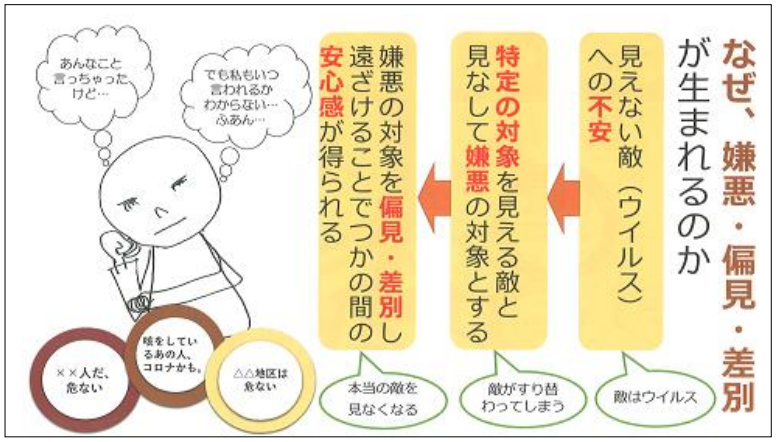
「新型コロナウイルスの
３つの顔を知ろう！」

「３つの顔」とは、
ウイルスがもたらす繋がりのある【３つの感染症】を意味する。

これを断ち切ろうというわけだ。

第１の感染症は「病気そのもの」。
第２の感染症は【不安】と【恐れ】。
第３の感染症は【嫌悪】や【偏見】、そして【差別】であると説いている。

ここでは「第３の感染症」についての記載を紹介する。

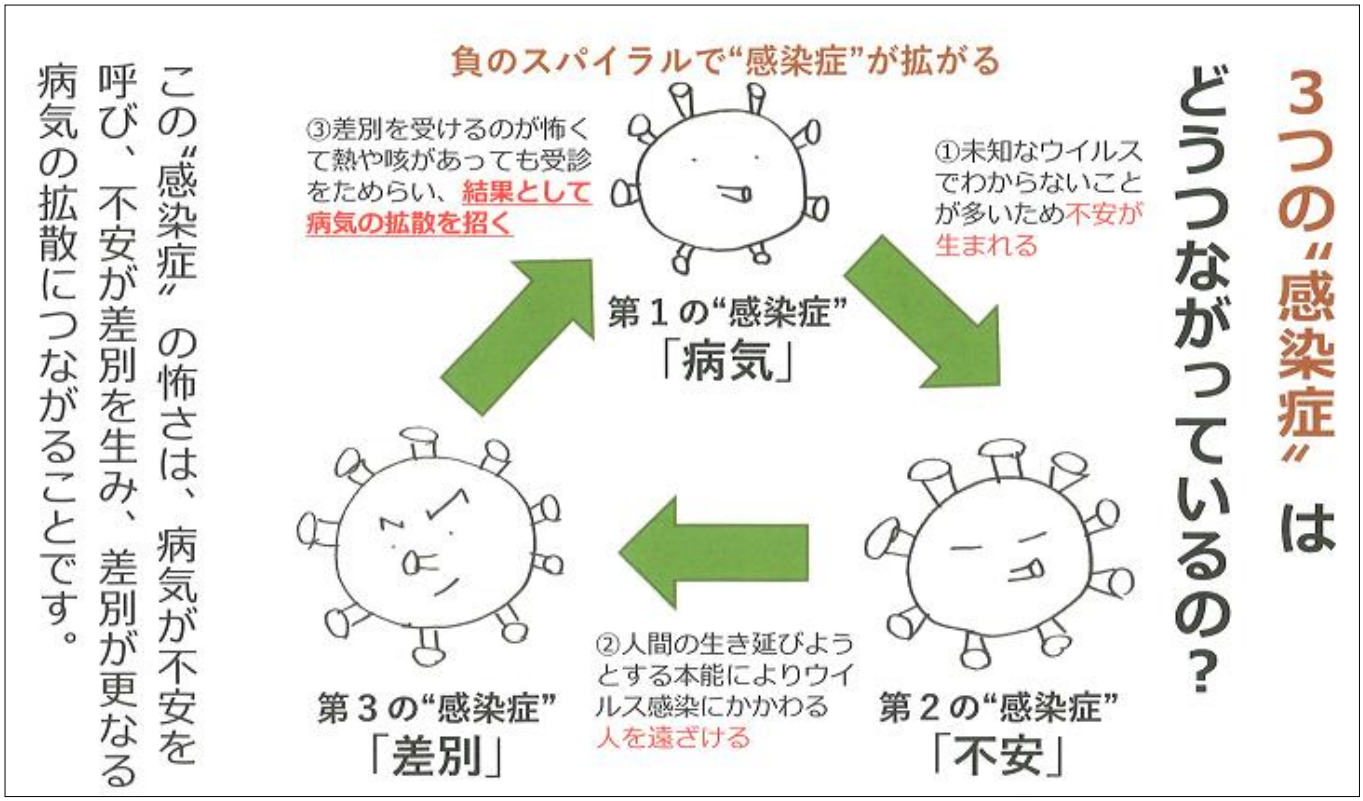


【嫌悪・偏見・差別】の発生について、イラストと図で説明がある。

３段階で示されているが、あることに気付いた。

【いじめの構造】そのものである。

続いて、３つの感染症のつながりについて。



【第１の感染症】

「新型コロナウイルス」という未知なウイルスの存在が「不安」を生み、

⇩

【第２の感染症】

「不安」や「恐れ」に振り回されて「人を遠ざけ」、

⇩

【第３の感染症】

「差別を受けるかもしれないという恐怖」が、体調不良にあっても受診をためらい、ひいては感染症自体の拡散を招いてしまう。

⇩

【第１の感染症】へ……これを「負のスパイラル」と定義付けている。

そして最後に、次のように結んでいる。

みなさんがそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。

小さな子どものいる家庭、高齢者、治療を受けている人とその家族、自宅待機している人、医療従事者、日常生活を送って社会を支えている人、この事態に対して対応しているすべての方々を「ねぎらい」「敬意」を払いましょう。

このウイルスとの戦いは長期戦になるかもしれません。
それぞれの立場でできることを行い、
みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう！

ふり仮名のない小冊子は、大人に読んでもらいたいというメッセージかもしれない。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月２６日(金)

◇　【環境整備】は続く❶

120 年記念式典が終わっても、本校の環境整備は続いている。

グラウンド整備もその一つ。これと並行していくつかの整備進行中である。
その一つに、４月から行っている「ウメノキゴケの除去」がある。

桜階段のソメイヨシノについては７月半ばに作業を終えた。落葉でむき出しとなった漆黒の幹は、コケが取り除かれた証だ。一方、梢の未処理のコケ（赤〇）が一際目立つ。蕾が膨らみ始める前に何とかせねばならない理由がある。

以前、校長だよりの紙面で、「ウメノキゴケは無害」と記載したことがある。丸呑みしていたネット情報だが、付け加えが必要なようだ。
「ウメノキゴケに害はないが、コケの付着で『梢の生長を抑える』『梢の生長を止める』」
玄関前のドウダンツツジの現状から推し図るに、こちらがより正しいのではないかと思っている。

本校自慢のドウダンツツジであるが、一点、気になっていたことがある。
向かって右端の株（青〇）だけがかなり弱っており、葉の数も少ないことから立ち枯れを心配していた。

ウメノキゴケは、ドウダンツツジにも例外なく付着していた。右端の株の付着量は特に多く、梢までびっしり。
水の冷たさが凍みる 11 月だったが、校務主任の加藤先生が高圧洗浄機で丁寧に取り除いてくれた。するとどうだ、２月。弱った株が息を吹き返したかのように、他株と同様に蕾を付けた。

近年、ウメノキゴケは、命名由来の「梅の木」にも被害を及ぼしているようだ。

植栽「トキワヒガシ」の法面にも梅の木の立ち枯れ➡切断の痕跡が残る。
さらに、プール周りの卒業記念樹「梅ちゃん里の梅の木」（※昭和 63 年度卒業生寄贈）20 本も、4 本が立ち枯れ、残存する 16 本の梅の木も衰弱が激しい。
ここ数年は、子供たちが収穫する梅の量が、ぐんと減っているとも聞く。

冷え込みの厳しい 1 月であったが、「梅の木が蕾を付ける前に」と、加藤先生と山田校務員が、梅の木のウメノキゴケ除去に対応してくれた。

樹高がそれほど高くない梅の木であるため、梢まで丁寧に取り除かれた校内の梅の木は、早速、蕾を膨らませ、ちらほらと花を咲かせている。
昨年の開花状況を知らないため、何とも判断がつかないところではあるが、漆黒の幹と枝、紅白の花は生気を放っているように見える。

ドウダンツツジ、そして梅の木のウメノキゴケ除去対応後の状態変化から、ソメイヨシノについても、梢の方まで手をかける必要性を感じている。
ただでさえソメイヨシノは傷みが激しい。

「桜の木は切らない方がよい。なぜなら、桜の木は切った部分から傷んでいく」と聞いたことがあるが、まさにそうである。
生長に伴う枝の剪定で各所が切断されたのだろう。その部分から水が入り、樹木を傷めていく。樹皮が剥がれ、幹の裂けも各所にある。
かなり弱っているソメイヨシノだが、まだ、何とか頑張っている。

桜の寿命は 50 年と言われる。まだ移転新築 34 年、あと 16 年はもたせたい。

ソメイヨシノも蕾を付け始める手前まで来た。さて、脚立を引っ張り出して頑張ろう。4 月に迎える入学式・始業式、昨年以上の開花を期待して…。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月２６日(金)
その２

◇　【環境整備】は続く❷

120 年記念式典が終わっても、本校の環境整備は続いている。

グラウンド整備や樹木管理と並行し、施設再塗装の整備も進行中である。

本題に入る前に余談を。
２月下旬ともなると、学校は、最重要行事の【卒業証書授与式（卒業式)】に向けての準備も本格的に開始する。式で保護者や来賓に配付する「しおり」もその一つである。

本校の「しおり」は実に豪華で、過去のしおりを見た時は、その豪華さにびっくりした。写真入りのカラー印刷である。
そして、しおりに目を通し、しおりの写真を見て、またびっくり。

背景の明らかに異なる壁色とタイル。こうした記録を見ると、やってよかったと思える。人間の記憶というのは実にいい加減なもので、再塗装後には、以前がどんな状態だったのか思い出せないのだ。記録写真の重要性を再確認。
そして、未修箇所も発見した。ジャングルジムの後方の低い壁面である。
これは、比較対象としてもってこいだ。しばらくこのままにしておこう。

さて、本題に移る。

現在、山田校務員が、新たな箇所の壁面を塗装してくれている。車両通用口から坂を登り切った正面に見える学級花壇の壁面だ。花壇だけに降雨などによる土砂の流出が多く、壁面の傷みが激しい箇所である。当初は白ペンキで塗装されていたが、右写真のように塗装自体の剥離も激しい。

白を塗り重ねることも考えたが、土砂による汚れも考慮し、チョコレート色のペンキで再塗装してもらっている。

通用口から見ると、こんな感じになる。いよいよ外国の学校っぽくなってきた。

校舎の土台が濃い茶色で引き締まり、落ち着いた感じに見えるのがいい。

山田校務員の塗装も上手い。どんどん腕をあげている。加藤先生、野中教員補助者、自分を加えた４人で、今後も継続進行の環境整備なのである。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月２６日(金)
その３

◇ 国旗・市旗・校旗　はためく

今日も、掲揚台の三旗（国旗・市旗・校旗）が「はためく」。この表現がよい。高台にある本校は風が抜ける。流れる風を旗が受け、三旗が「はためく」。

天気がよいとこんな感じ。☞

雲がたなびく背景もよいが、やはり抜けるような青空がよく似合う。

三旗の管理と掲揚・降納の担当は４年生から６年生の代表委員たち。

登校したら、代表委員が真っ先に行うのが掲揚作業だ。教室に向かう前に行うから、本校は、朝からはためく三旗を目にすることができる。
雲行きが怪しくなれば、放課を使ってさっと取り込む。責任感の強い代表委員たちは、ほんとうに頼もしい。

本校では、年度途中に三旗の掲揚位置を変更している。現状が正式な位置。調べて初めて知ったのであるが、これは本校の掲揚ポールの高さに合わせた形。

中央が高い山型のポールの場合、左から「市旗」「国旗」「校旗」の順で、最上位の国旗が最も高い中央に配置となる。よく見る序列だ。
対して、本校のように３本のポールの長さが同じ場合、最上位が左側、順に右に流れていくので、左から「国旗」「市旗」「校旗」の順になるのである。

さて、本たよりのタイトルは、初めは「国旗・市旗・校旗　たなびく」だった。念のために表現を調べてみると、「たなびく」は、形がはっきりしないものが漂う様子。「はた」重なりでこそばゆい感じもするが、旗の場合は「はためく」が適切。軽く風を受けているときは「なびく」も使えるとのこと。勉強になった。

【岡崎市章　豆知識】（※白地に赤が正式）

市旗にある市章は、【岡】の文字のアレンジ意匠。だから、何となくオカザえもん的風合いがあるのも頷ける。
この【岡】が玉（宝珠）の中にある。三角形に配置された玉の飾りに見えるのは、岡崎城を守る竜神の爪を表す。
つまり岡崎市章は、宝石の中にある岡崎を竜神が守っているという意味をもつ。なかなか格式が高いのである。

この市章、岡崎北高校の男子学生服が学ラン（※平成に移ると同時に制服はブレザーに変更）だったころ、制服の金バッジにそのままあしらわれていた。これは、管轄が市から県に移管される前、岡崎北高校の前身が「岡崎市立高等学校」であった歴史が関係している。

スペースが余ったので、環境整備の続き。花壇壁面の再塗装が完了しました。

業者依頼対応ではない。山田校務員の力作。感謝。

常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年３月５日(金)

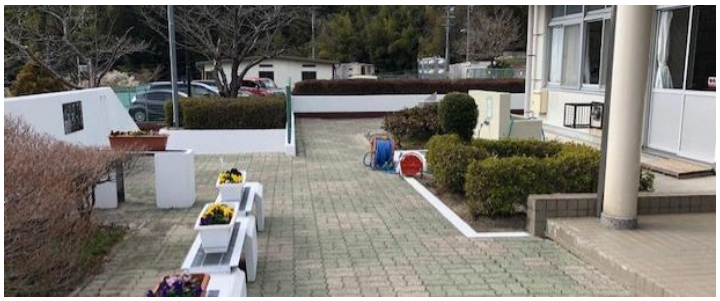
◇　【環境整備】は続く❸

☜遊具コーナー奥の「ウバメガシ」。
まるで【キノコの山】。【棒アイス】にも見える。
先日、庭師に依頼して剪定してもらった。
流石にプロである。

☞
手前「クロガネモチ」と奥の「クロマツ」も庭師の手によって刈り込まれ、ご覧のようにさっぱり。

庭師が手を入れてくれたのは、上記の３本に「ウバメガシ」の左にある球形の「イスノキ」を加えた計４本。「時間があるからサービスです」と、体育館周辺の樹木に手を加えてもらえたのはありがたい。さすが本校と長年の付き合いがあるだけのことはある。

年に一度の「庭師による剪定」。卒業証書授与式に向けた岡崎市の配慮による環境整備なのであるが、どうやら来年度からは難しそうだ。予算計画によれば、岡崎市の財政も相当苦しいようで、新型コロナが各所に影響を及ぼしている。



年に１回の庭師の剪定作業。裏を返せば、その他の対応については、全て学校で行っているということ。

自慢の玄関前や桜階段の低木の剪定は、他校と同じように、全て校務員が担っているということだ。

ただし、本校は高低（段差）があったり、法面があったり、植栽があったりと、本当に大変なのだ。

全ての剪定を担う山田校務員（＋他校の校務員の協力）に感謝である。

＜常磐東小学校　豆知識＞

夏季は緑一色の桜階段が、冬季はこのように２色に。

サツキ（緑）とツツジ（茜）が奏でる隠れた植栽なのである。